

# 琉球列島のシマトネリコで見つかった *Pimelocerus* 属 (コウチュウ目, ゾウムシ科, アナアキゾウムシ亜科) の2種

小島弘昭<sup>1)</sup>・森本 桂<sup>2)</sup>

1) 〒243-0034 厚木市船子1737 東京農業大学昆虫学研究室

2) 〒811-0205 福岡市東区奈多団地20-101

## Two *Pimelocerus* species (Coleoptera, Curculionidae, Molytinae) found on *Fraxinus griffithii* (Oleaceae) in the Ryukyus, Southwest Japan

Hiroaki KOJIMA and Katsura MORIMOTO

Summary: Two species of the molytine weevils of the genus *Pimelocerus* Lacordaire (= *Dyscerus* Faust) were found on the trunks of an ash tree, *Fraxinus griffithii* in the Yaeyama group of the Ryukyus, Southwest Japan. They were identified as *Pimelocerus perforatus* (Roelofs) and *P. galloisi* Kôno. *Fraxinus griffithii* is newly recorded as their host plants, and the occurrence of *P. galloisi* in the Ryukyus are newly confirmed. In particular, the occurrence trend of *Pimelocerus galloisi* should be paid an attention in the Yaeyama group of the Ryukyus in the future since the weevil seems to become common recently even in the open places along the forestry road, where the host is abundant.

シマトネリコ *Fraxinus griffithii* は、琉球列島から、台湾、中国、フィリピン、インドに分布し、別名タイワンシオジとも言われるモクセイ科の常緑～半常緑高木で、寒さにも比較的強いことから、本土でも観葉植物や街路樹として広く流通し、植栽されている。筆者の一人、小島は西表島において、シマトネリコの根際に近い幹にアナアキゾウムシが静止しているのを見つけた (Figs. 1, 2)。その後、島内各地のシマトネリコを注意して見てまわったところ、比較的普通に同じような状態で幹や樹皮の隙間、樹皮下に静止するアナアキゾウムシが見られた。アナアキゾウムシは *Pimelocerus* (= *Dyscerus*) 属に分類されるもので2種からなり、うち1種は現地でオリーブアナアキゾウムシ *Pimelocerus perforatus* (Roelofs) と同定できたが、より普通に見られたもう1種は、詳細な検討が必要と考えられた。そこで、本種について雄交尾器を含めた検討を行なったところ、本土から知られるガロアアナアキゾウムシ *P. galloisi* (Kôno) であることが判明したので、分布ならびに加害植物の新知見として報告する。なお、両種の最近の学名の変更については、小島・森本 (2004) を参照頂きたい。

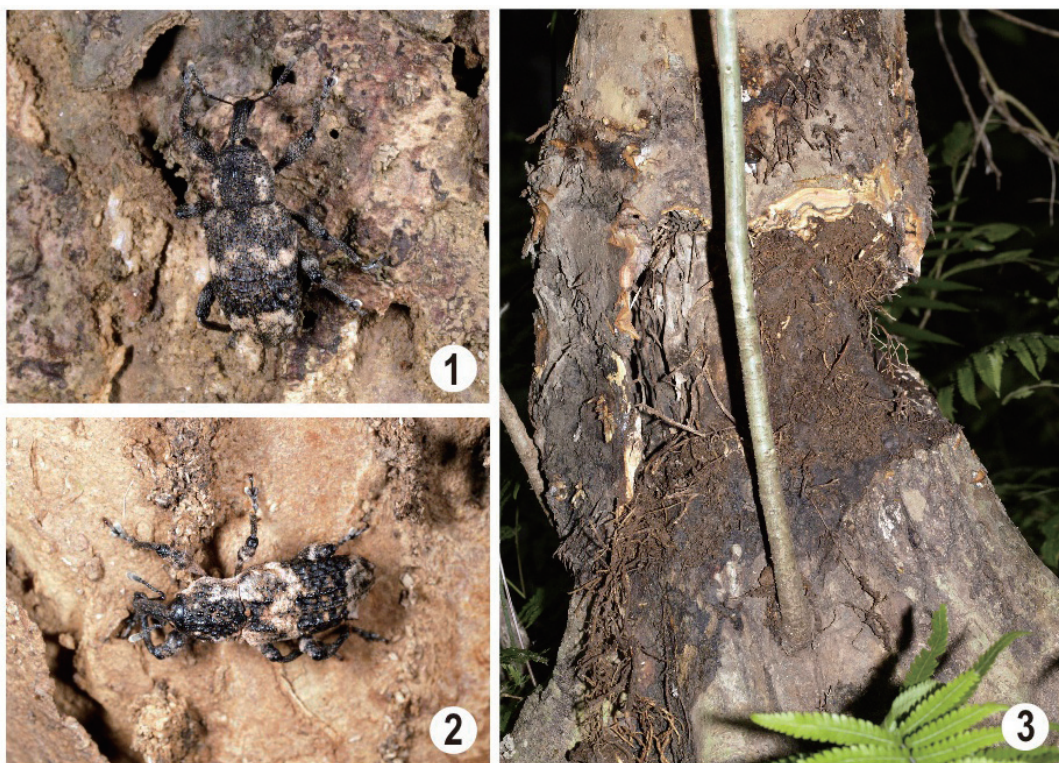
両種とも体長12–15 mm程度の比較的大形のゾウムシで、幼虫は根際の樹皮下を食害し、大発生すると樹木に甚大な被害を及ぼすことが知られており、とくにオリーブアナアキゾウムシは香川県小豆島でオリーブに大害を与え、生態や防除について多くの研究が報告されている (森本, 1962 ;

遠田, 1993)。アナアキゾウムシが発見された根際には、このゾウムシの幼虫によると思われる食害痕が見られる木もあり (図3)、中からは少ないながら幼虫も見つかった。シマトネリコは同島では道路や林道脇の開けた場所にも普通に見られる先駆的植物で、とくにガロアアナアキゾウムシについては、大形の種にも関わらずこれまで見つかっていなかったことを考えると、最近、個体数が増加している可能性があり、八重山諸島における今後の発生動向には注意を払う必要がある。

報告に先立ち、施設利用や入林を快諾頂いた琉球大学熱帯生物圏研究センターならびに沖縄営林署の関係者にお礼申し上げる。また現地調査に協力頂いた金城政勝博士ならびに関東準之助氏、福澤卓也氏の各氏に感謝する。本研究は、一部、科学研究費補助金 (16770067; 研究代表者: 小島弘昭) の助成を受けて行われた。

### 1. オリーブアナアキゾウムシ *Pimelocerus perforatus* (Roelofs, 1873)

本種は関東以西の本州、八丈島、小豆島、四国、九州、琉球 (石垣島、西表島)、台湾、中国に分布し、イボタノキ *Ligustrum obtusifolium*、ネズミモチ *L. japonicum* などを加害するが、輸入栽培したオリーブ植栽地で大発生し、その重要害虫として知られるようになった (遠田, 1993; 本間, 2003)。西表島において少ないながら次種と混生し、シマトネリコより得られたので、新たな加害植物の一つと



Figs. 1-3. Adults and larval feeding trace of *Pimelocerus* species on the trunk of *Fraxinus griffithii* at Shirahama-rindô, Iriomote-jima I., the Ryukyus. 1. Adult of *P. galloisi*; 2, adult of *P. perforatus*; 3: larval feeding trace on the trunk near the root of the host tree.

して記録しておく。

検視標本. 沖縄県八重山郡石垣島, 1 ex., オモト岳, 18-21. iv. 1975, 入江平吉採集 (九大所蔵). 西表島, 1 ex., 28. v. 1962, 小島圭三採集 (九大所蔵); 1 ex., 白浜, 6. viii. 1961, M. Kina (九大所蔵); 1♂, 白浜, 29. xii. 2004, 小島弘昭採集; 1♂, 白浜, 2. i. 2005, 小島弘昭採集; 1♂, 大富林道, 7. iv. 2005, 小島弘昭採集; 1♂, 船浦, 17. iii. 2012, 小島弘昭採集.

## 2. ガロアアナアキゾウムシ *Pimelocerus galloisi* (Kôno, 1934)

本種はこれまでに北海道, 本州, 九州から知られ, シオジ *Fraxinus platypoda* ならびにトネリコ *F. japonica*, ヤチダモ *F. mandshurica* var. *japonica* を加害することが報告されている (森本, 1962, 1982, 1984). 今回, これまでの分布域からは隔たった西表島で見つかった. 本土産と比べると前胸や上翅の白色斑が安定して認められる傾向があるが, 雄交尾器を含めその他の形態形質に種を識別するほどの差異は認められなかった. 石垣島産の標本も検しており, 琉球列島 (八重山諸島) に分布することが明らかとなった. 西表島では道路や林道脇のシマトネリコに比較的普通に見られたが, これ

まで発見されていなかったことを考えると, 近年, 増加傾向にある可能性があり, 今後の発生動向には注意を要する. また, シマトネリコは本土でも街路樹として普通に植栽されており, 本土のガロアアナアキゾウムシによる被害が今後発生する可能性もないとは言えない. なお, 九州大学には, 高知県産ならびに佐渡島産の標本があり, 本種は四国, 佐渡島も分布することをあわせて付記しておきたい.

検視標本 (石垣島産以外はすべて小島弘昭採集). 沖縄県八重山郡石垣島, 1 ex., オモト岳, 23-26. V. 1990, 森本桂採集 (九大所蔵). 西表島, 4♂♂, 2♀♀, 上原, 24-25. xii. 2004; 4♂♂, 白浜, 29. xii. 2004; 2♂♂, 古見, 1. i. 2005; 9♂♂, 1♀, 白浜, 2. i. 2005; 11♂♂, 1♀, 白浜, 10. iv. 2005; 4♂1♀, 白浜林道, 17. iii. 2012.

## 引用文献

- 遠田暢男, 1994. オリーブアナアキゾウムシ. 森林昆虫 総論・各論 (小林富士雄・竹谷昭彦編著): 232. 養賢堂発行, 東京.  
 本間健平, 2003. オリーブアナアキゾウムシ. 日本農業害虫大事典 (梅谷献二・岡田利承編): 576. 全国農村教育協会, 東京.  
 小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本産ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. 九州大学総合研究博物館研究報

告, (2): 33-147.  
 森本 桂, 1962. 森林害虫として記録されているゾウムシ類の種名について II. クスアナアキゾウムシとその近似種. 林業試験場報告, (143): 1-8, 2 pls.  
 Morimoto, K. 1982. The family Curculionidae of Japan. I. Subfamily Hylobiinae. Esakia, (19): 51-121.

森本 桂, 1984. ゾウムシ科. 原色日本甲虫図鑑 IV (林匡夫ら編著): 269-345, pls. 53-68. 保育社, 大阪.

(2012年4月23日受領, 2012年5月23日受理)

### 【短報】日本産ハナノミ族数種の記録

ハナノミ科ハナノミ族のうち, 以下の種については, 高桑 (2000, 2006, 2007) を参考にすると, 府県未記録種, もしくは本州ないし九州未記録であるなど, 分布的に記録しておくべきものと思われるので報告する. 標本は秋田が所蔵し, 同定および各県における記録の確認については高桑がおこなった.

中峰空, 中西元男, 木村忠睦, 野田亮, 山崎哲郎, 下山良平, 宮田達美, 田中伸一の諸氏には標本を提供していただいた. 感謝したい.

#### オオオビハナノミ *Glipa shirozui* Nakane

兵庫県: 10♂♂, 6♀♀, 三田市福島(有馬富士公園), 13. VII. 2004, 中峰空採集.

日本では屋久島から青森県まで広く分布しているが, 兵庫県ではこれまで北部に限られた場所でのしか記録がなかったようである.

#### アヤオビハナノミ *Glipa ohgushii* (Chûjô)

山口県: 1♀, 周防大島町油良, 28. VII. 2009, 田中伸一採集. 鹿児島県: 1♀, 佐多町杉山谷, 5. VIII. 2004, 野田亮採集.

宮崎・熊本県以北の九州～東海地方にかけて局地的に分布が知られていた. 山口県および中国地方から初めての記録と思われる.

#### カルベオビハナノミ *Glipa karubei* Takakuwa

鹿児島県: 1♀, 佐多町杉山谷, 4. VII. 2004, 野田亮採集.

屋久島から記載された種で, 九州本土からは未記録であった. 佐多町ではほかにもいくつか採集されている (未発表).

#### キボシハナノミ *Hoshihananomia hananomi* (Kôno)

長野県: 1♂, 王滝村御岳, 1500m, 27. VII. 2002, 秋田採集; 1♂, 1♀, 王滝村鈴ヶ沢, 1,300-1,400m, 29-30. VII. 1999, 秋田採集; 1♀, 下諏訪町東俣観音沢林道, 1,350m, 9. VIII. 1999, 下山良平採集; 1♂, 川上村梓山, 1,350-1,400m, 22-24. VII. 1992, 秋田採集.

屋久島から阿武隈まで分布するが, 地域によってはかなり局地的で, これまで長野県では北アルプスの一部にしか記録がなかったようである.

#### オオキボシハナノミ *Hoshihananomia auromaculata nipponica* Nomura

北海道: 5♂♂, 松前町原口, 29. VIII. 1992, 宮田達美採集.

これまで北海道では十勝支庁トムラウシと北見支庁生田原から知られてきたが, 渡島半島からは初めての記録と思われる. 晩夏の採集なので時期的に注目される. なお同地で1990年9月9日に宮田氏が採集した本種の標本多数が神奈川県立生命の星・地球博物館にも収蔵されている.

#### ミツオホシハナノミ *Hoshihananomia mitsuoi* Nakane et Nomura

京都府: 2♀♀, 京都府園部町南大谷, 5. VIII. 2003, 山崎哲郎採集; 1♂, 亀岡市西加舎, 5. VIII. 2003, 山崎哲郎採集.

九州北部から中国地方 (おもに瀬戸内地方) を経て愛知・岐阜県まで知られるが, 京都府からはこれまで記録がなかったようである.

#### 引用文献

- 高桑正敏, 2000. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 4. 甲虫ニュース, (129): 1-6.  
 高桑正敏, 2006. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 9. 甲虫ニュース, (154): 1-7.  
 高桑正敏, 2007. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 10. 甲虫ニュース, (157): 1-4.

(秋田勝己 514-1108 津市久居射場町 66, D-304)

(高桑正敏 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館)